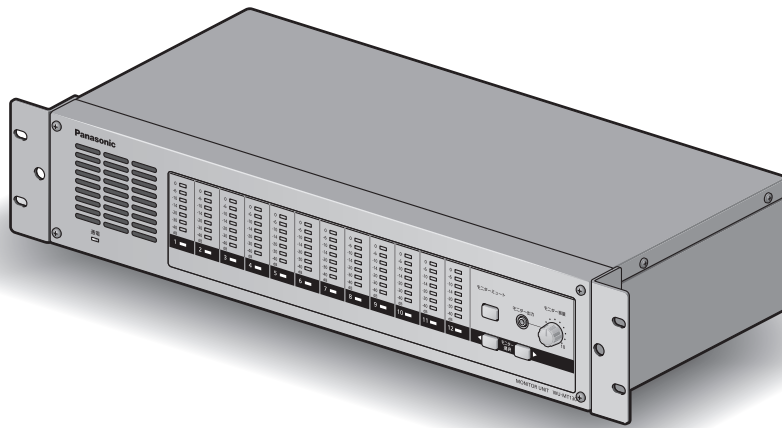


## 取扱説明書

工事説明付き

モニターユニット 業務用

品番：WU-MT130



### 保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(5～6ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

# はじめに

## 商品概要

本機は、業務放送または非常用放送の放送をモニターするためのラックマウント専用装置です。

- 本機1台で、最大12系統までの音声信号を入力することができます。音声信号は系統ごとに、ハイインピーダンス100系、またはライン入力の信号を入力できます。
- 入力した音声は、系統ごとに本機前面のモニタースピーカーもしくはヘッドホン端子でモニターできます。確認したい音声の系統はモニター選択スイッチで選択します。
- 本機前面にあるレベルメーターで、常時音声レベルを確認することができます。
- 当社業務放送システムに組み込んで使用する場合、「マイク放送中」に設定した状態出力端子と本機のミュート制御入力端子を接続すれば、マイク放送時、自動的にモニタースピーカーの音量をミュートし、ハウリングを防止できます。
- 本機は、AC100 VおよびDC24 Vで運用できます。

## 付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）	1冊	電源コードクランプ	1個
保証書	1式	ラックマウント用ねじ（M5×12 リブ付き）	4本
電源コード	1本	束線バンド	2本

## 免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、運用ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 本商品の不良・不具合以外の事由（取付工事の不備、建屋側取付面の不良などを含む）による落下などによる不便・損害・被害

## 本機について

本機は子供が居る可能性がある場所での使用には適していません。

## 著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

## 記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



**重要** : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

本機に表示される記号は、以下の意味になります。



：直流電源



：交流電源

# もくじ

## はじめに

はじめに	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
本機について	2
著作権について	3
記号について	3
安全上のご注意	5
使用上のお願い	7
各部の名前とはたらき	8
前面	8
後面	9

## 設置・接続

設置のしかた	10
設置上のお願い	10
ラックへの取り付けかた	11
電源コードの取り付けかた	12
接続のしかた	13
音声入力端子（コネクタ式端子台）の接続	13
電力増幅ユニットとの接続	15
ライン機器との接続	18
マイクミュートの接続	20
緊急放送・業務放送用非常電源ユニットとの接続	21
EMG制御に関する設定	22
非常用放送設備との接続	22
EMG制御時のモニター音量の調節	23

## その他



故障かな!?	24
仕様	25
保証とアフターサービス	26

# 安全上のご注意



必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。






■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 <b>警告</b>	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 <b>注意</b>	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

## 警告

	<b>ねじやボルトは指定されたトルクで締め付ける</b> (落下によるけがや事故の原因となります。) <b>電源プラグは根元まで確実に差し込む</b> (差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。) ● 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。 <b>異常があるときは、すぐ使用をやめる</b> (煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。) ● 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。
 禁止	<b>異物を入れない</b> (水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。) ● 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。 <b>電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない</b> (傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねる など) (傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。) ● コードやプラグの修理は販売店に相談してください。 <b>雷のときは工事、配線をしない</b> (火災や感電の原因となります。) <b>不安定な場所に置かない</b> (落下や転倒によるけがや事故の原因となります。)
 ぬれ手禁止	<b>ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない</b> (感電の原因となります。)
 水ぬれ禁止	<b>機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない</b> (水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。) ● 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。
 分解禁止	<b>分解しない、改造しない</b> (火災や感電の原因となります。)

はじめて

## 注意



### 工事は販売店に依頼する

(工事には技術と経験が必要です。けが、器物破損の原因となります。)

- 必ず販売店に依頼してください。

### お手入れのときは電源を切る

(感電の原因となります。)



### 湿気やほこりの多い場所に設置しない

(けがの原因となります。)

禁止

# 使用上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

## 本機は屋内専用です。

屋外での使用はできません。

長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のわからない状態で使用してください。

## 本機は業務用機器です。

## 付属の電源コードは本機専用です。

他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

## 本機に電源スイッチはありません。

電源を遮断する場合は、コンセントから本機の電源プラグを抜いてください。また、電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。

## 使用温度範囲は

0℃～45℃です。この温度範囲以外で使用すると、故障または誤動作の原因となります。

## プラグやコネクタの抜き差しは

スピーカー破損の恐れがありますので、ボリュームを絞ってから行ってください。

## お手入れについて

- 電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。  
ほこりがとれにくいときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。
- ベンジンやシンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

## 長期間使用しない場合は

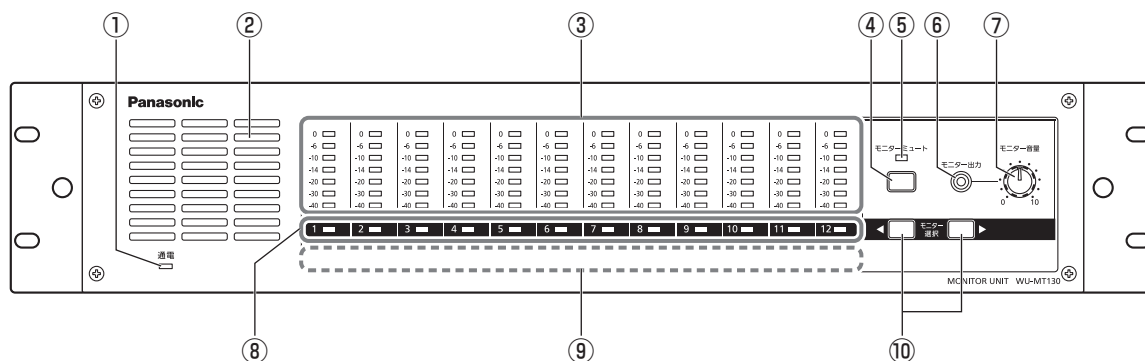
電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 日常点検と保守点検のお願い

日常、定期的にスイッチやボタンのON/OFF、ボリューム、各種表示の確認を行ってください。何らかの不具合、異常があった場合、またはそのおそれがあった場合、直ちにお買い上げの販売店へご相談ください。保守点検は、年1回を目安に実施してください。詳細については、販売店にご相談ください。

# 各部の名前とはたらき

## 前面



### ① 通電表示灯【通電】

本機にAC100 VまたはDC24 Vが通電されると点灯します。

### ② モニタースピーカー

モニター選択スイッチで選択したシステムの音声をモニターするためのスピーカーです。

### ③ レベルメーター

系統ごとに、入力レベルを表示します。赤色(0 dBV)が点灯する場合、出力側機器の出力レベルを調節してください。出力レベルを調節するときは、システム構成を確認の上※、調節してください。

※システムの構成によっては、アンプで音量を調節してはいけない場合がありますので注意してください。

### ④ モニターミュートスイッチ

モニタースピーカーおよびヘッドホン端子に接続したヘッドホンなどからの音声の出力/ミュートを切り換えます。

外部からマイク優先制御や非常制御が入力されている場合、外部からの制御が優先となりスイッチは動作しません。

### ⑤ モニターミュート表示灯【モニターミュート】

モニターのミュート状態を表示します。点灯している場合にはモニタースピーカーおよびヘッドホン端子に接続したヘッドホンなどから音声は出力されません。

### ⑥ ヘッドホン端子【モニター出力】

(モノラル出力/不平衡)

ヘッドホンなどを接続して、音声をモニターできます。本端子が接続されている場合、モニタースピーカーから音声は出力されません。

### ⑦ モニター音量調節つまみ【モニター音量】

モニタースピーカーおよびヘッドホン端子に接続したヘッドホンなどの音量を調節します。右に回すと音が大きく、左に回すと音が小さくなります。

### ⑧ モニター選択表示灯

選択されている系統の表示灯が点灯します。

### ⑨ 系統記名欄

PA系統名やソース名を記入したラベル(高さ9 mmの市販の記名シートなど)をはり付けてください。

### ⑩ モニター選択スイッチ【モニター選択】

モニターする系統(1~12)を選択します。

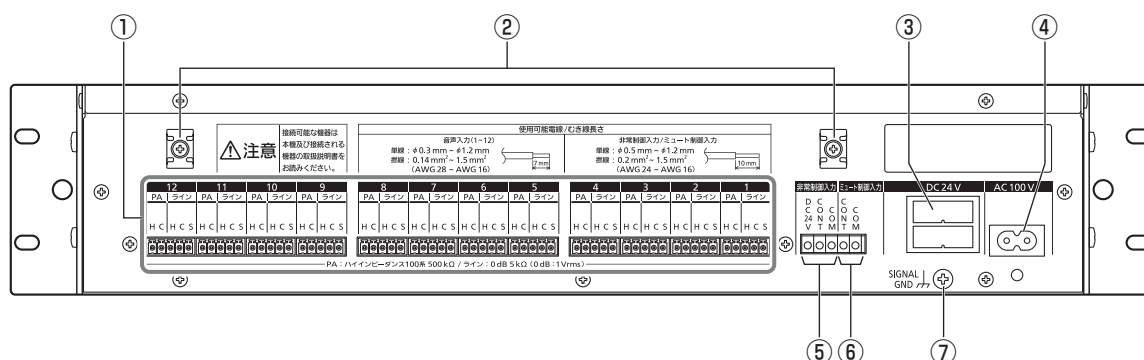


重要

- モニターする系統を切り換える場合は、切り換え先の系統の音量がモニター中の系統の音量と同程度になるように、レベルメーターを参考に音量調節してから切り換えてください。モニター中の系統より音量が大きい系統に切り換えると、急激な音量変化で聴覚を損傷する恐れがあります。



## 後面



### ① 音声入力端子

入力1～12の端子です。演奏・放送機器やPAの出力を接続します。100系スピーカーラインまたは0 dBラインを入力します。

### ② ケーブルクランプ

接続ケーブルを付属の束線バンドで固定します。

### ③ DC端子 [DC24V]

停電時の緊急放送および業務放送で本機を使用する場合に、緊急放送・業務放送用の非常電源ユニットとDCケーブルで接続します。上下の端子は内部で並列に接続されています。

### ④ 電源入力端子 [AC100V]

付属の電源コードを接続します。電源コードのプラグは、電源制御ユニットACコンセントへ接続します。接続後は、電源コードクランプでコードを固定してください。(12ページ)

### ⑤ 非常制御入力端子 [非常制御入力]

非常用放送設備からの非常制御信号を接続します。本端子を接続する場合はDC24 V～CONT間のジャンパー線を外してください。

### ⑥ ミュート制御入力端子 [ミュート制御入力]

マイク放送時、自動的にモニター音量を下げるための制御信号を入力します。モニター音量を下げずに、モニタースピーカーの近くでマイク放送を行うとハウリングを起すことがあります。

### ⑦ シグナルグランド端子 [SIGNAL GND]

ほかの機器と電位差をなくすために必要に応じて各機器のSIGNAL GNDと接続します。

# 設置のしかた

## 設置上のお願い



### 警告

- 工事は必ず販売店に依頼してください。
- 「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

設置工事は電気設備技術基準にしたがって実施してください。

### 本機は屋内専用です。

屋外での使用はできません。

長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のわからない状態で使用してください。

### 工事は電源を入れないで行ってください。

工事は、本機の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。また本機に接続されているミキサーやアンプなどの電源も切ってから行ってください。接続時にスピーカーから大きなノイズが出て、機器の破損につながります。

### 設置場所について

水平な場所へ設置してください。後面を下にして立てないでください。

### 以下の場所には設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所や温風吹き出し口の近く
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- 結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気（湿度）の多い場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- 傾斜のある場所
- 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 本機、ケーブルなどが容易に破壊されるような場所

### 使用電源は

電源電圧はAC100 V (50 Hz/60 Hz) です。十分な容量のある電源に接続してください。

### ラックに取り付けるときは

- 本機をラックに取り付ける場合は、必ず「ラックへの取り付けかた」(11ページ)記載のものをご使用ください。
- ラック内の温度が45℃を超えないようにしてください。内部の部品に悪影響を与え、故障の原因となります。

### 電源について

本機には電源スイッチはありません。本機を電源から遮断するときは電源プラグを抜いてください。容易に電源を遮断できるように、電源コードは次のいずれかの方法で接続してください。

- 電源コンセントやブレーカーの近くに設置し、電源プラグを介して接続する。
- 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

### 表示について

本機の識別および電源、その他の表示は機器後面をご覧ください。

### 静電気について

静電気による損傷を防止するために、設置工事の前に、アースの取れた金属製のものに触れて身体に帯電した静電気を放電してください。

### ねじの締め付けについて

- ねじは指定の締めトルクに従い、まっすぐ締めてください。締めたあとは、目視にて、がたつきがなく、しっかりと締められていることを確認してください。
- インパクトドライバーや電動ドライバーは、クラッチ付のものであってもトルク管理が困難なため、使用すると取り付け部の破損の原因になりますので、使用しないでください。

### 強い衝撃を与えない

本機に強い衝撃を与えないでください。本機が破損するおそれがあります。

## ラックへの取り付けかた

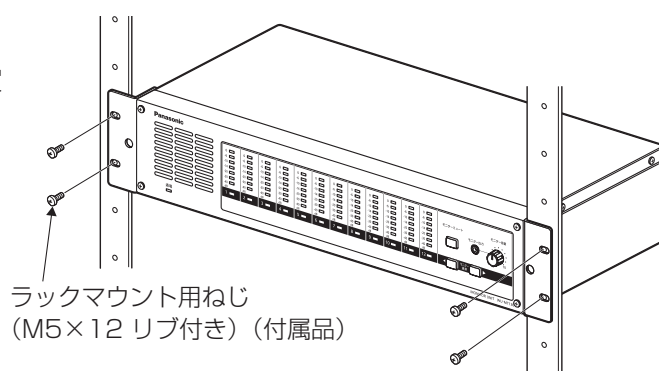
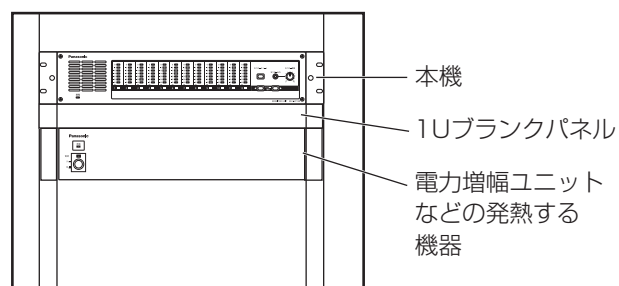
本機を取り付けるラック（別売品）は、次のいずれかを使用してください。

- スタンダードラック
  - ：WU-RS80 収納ユニット数29U（当社製）
  - ※ 従来品のWU-RS71もお使いいただけます。
- ロングラック
  - ：WU-RL85 収納ユニット数41U（当社製）
  - ※ 従来品のWU-RL76もお使いいただけます。
- EIA規格相当品
  - ：EIA19型、奥行き450 mm以上のもの

本機をラックに取り付けるときは、付属のラックマウント用ねじ（M5×12 リブ付き）4本で、確実に固定します。

ラックマウント用ねじ（M5×12 リブ付き）の締付トルクは、 $2\text{ N}\cdot\text{m}\sim 2.4\text{ N}\cdot\text{m}$  { $20.5\text{ kgf}\cdot\text{cm}\sim 24.5\text{ kgf}\cdot\text{cm}$ } です。

ラック取り付け例



重要

- 本機は発熱量の多い機器（電力増幅ユニットやパワーアンプなど）の近くに設置しないでください。やむをえず、近くに設置する場合は、上下に1U（44 mm）以上の間隔を空けてください。
- ラック内の温度は45℃以上にならないようにしてください。
- 振動の多い場所に設置しないでください。
- ラックは通気性の良い場所に設置してください。ラック内に熱がこもるときはラック内の温度が45℃以上にならないように換気対策を行ってください。

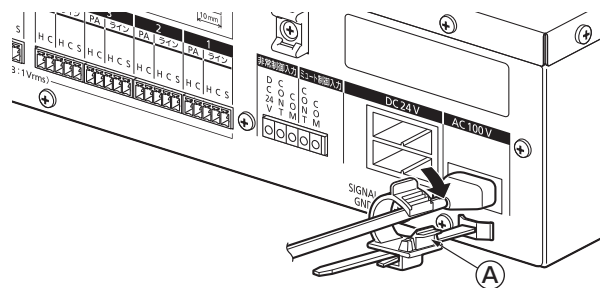


- 他社製ラックに取り付ける場合は、付属のラックマウント用ねじ（M5×12 リブ付き）4本または取り付けを行うラック側で指定のねじを用意してください。

## 電源コードの取り付けかた

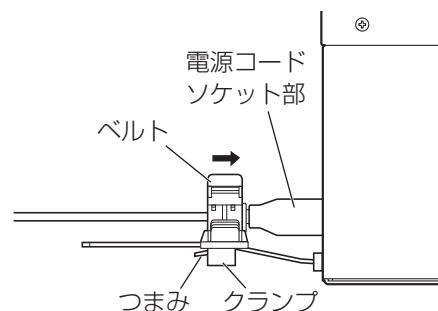
本機後面の電源入力端子 [AC100V] に付属の電源コードを挿し込み、電源コードクランプで束線してください。

右図のように矢印の方向に電源コードをはさみ込み、Ⓐ部で束線してください。



### ● 電源コードのクランプのしかた

- (1) 電源コードをクランプで押さええます。電源コードクランプのベルトを最後まで締めます。
- (2) 電源コードクランプの「クランプ」を図の矢印の方向にスライドさせて、電源コードのソケット部をしっかりと固定します。
- (3) 電源コードクランプを外すときは、図のクランプ部のつまみを操作して外してください。



# 接続のしかた

本機は、12系統までの音声をモニターできます。系統ごとに、H (HOT)、C (COLD)、S (GND、ライン入力のみ) があります。

## 音声入力端子（コネクター式端子台）の接続

### ■ ハイインピーダンス100系の接続

PA出力ケーブルを加工して接続してください。

※ より線ははんだ仕上げ禁止。

ケーブルの先端7 mmの被覆をむきます。



### ■ ライン入力信号の接続

2芯シールド線で接続します。

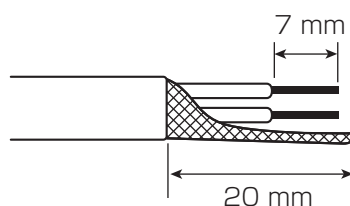
接続には下記のケーブルを使用してください。

単線 :  $\phi 0.3 \text{ mm} \sim \phi 1.2 \text{ mm}$

より線 :  $0.14 \text{ mm}^2 \text{ (AWG28)} \sim 1.5 \text{ mm}^2 \text{ (AWG16)}$

※ より線ははんだ仕上げ禁止。

ケーブルの先端7 mmの被覆をむきます。

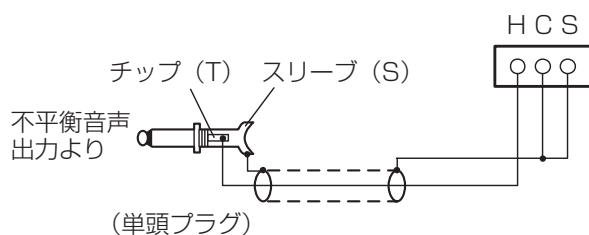


重要

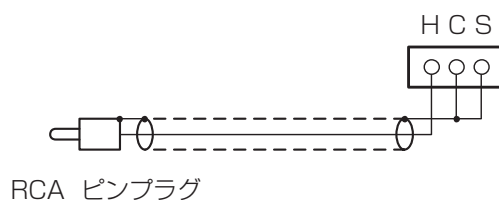
- より線、シールド線を使用するときは、むきしろ部分に半田めっきをしないでください。経年変化などで接触不良が発生する可能性があります。
- シールド線を使う場合、シールドから芯線が露出している部分が長いと、外来ノイズを受けやすくなります。上記のむきしろの長さを目安として作業してください。



- 不平衡音声出力の機器と接続するときは、図のように配線してください。



※ 単頭プラグスリーブのシールド線をSに接続し、C (COLD) とS (GND) を接続します。



※ ピンプラグからシールド線とSを接続し、C (COLD) とS (GND) を接続します。

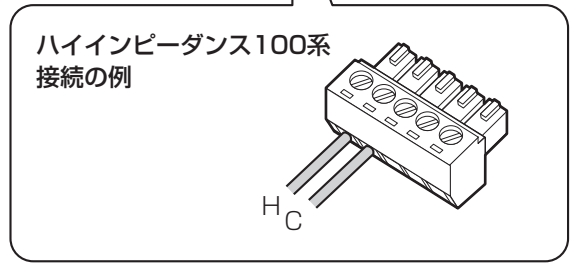
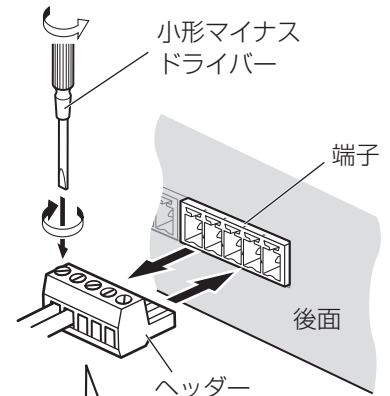
# 接続のしかた

## ■ 接続手順



- 本機後面の各音声入力端子には、工場出荷時点でコネクター式端子台ヘッダー（以下、ヘッダーと表記します）が取り付けられています。

1. 各端子からヘッダーを取り外す
2. 外したヘッダーのねじをゆるめて、ケーブル挿し込み口を閉じている金具を広げ、先端を加工した線を挿し込む
  - ケーブルの導体部が出ないように挿し込みます。
3. ゆるめたねじを締めて、線が抜けないことを確認する  
ねじの締付トルク：0.22 N・m～0.25 N・m  
{2.2 kgf・cm～2.5 kgf・cm}
  - ドライバーは刃先幅が2.5 mmのマイナスドライバーを使用します。
4. 線を接続したヘッダーをそれぞれの端子に挿し込む

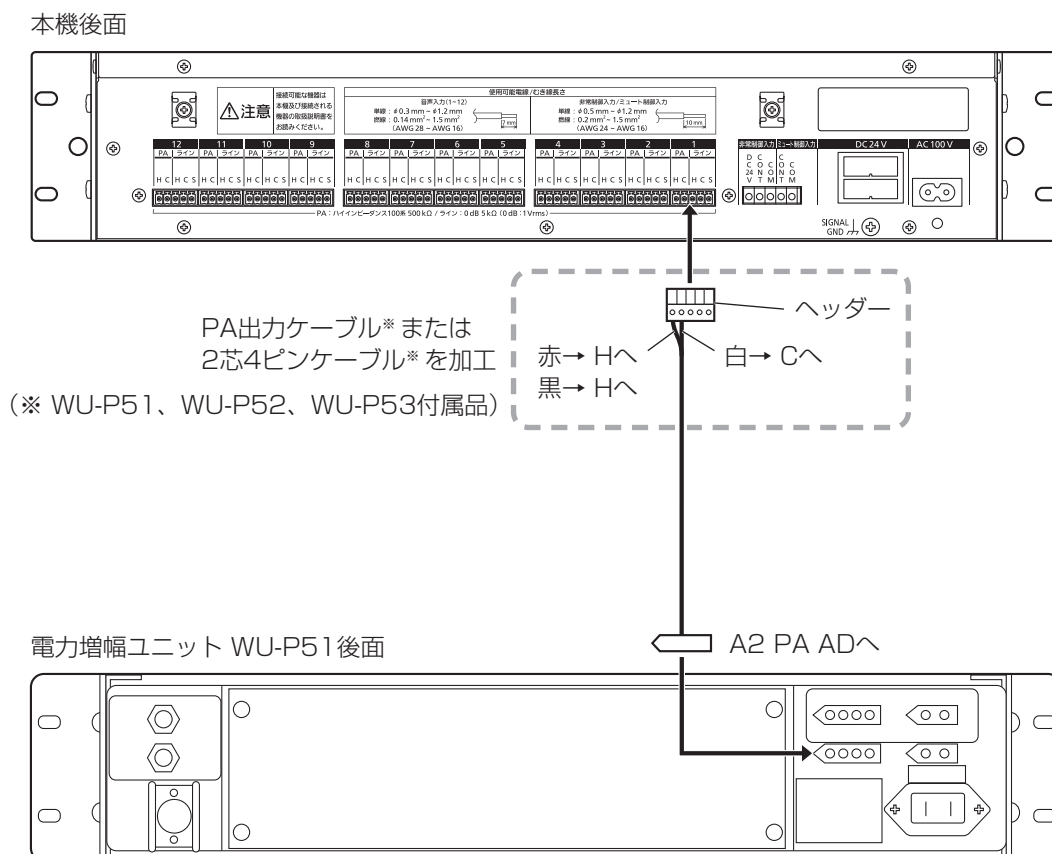


- 各ヘッダーへの接続はヘッダーごとにライン入力信号、ハイインピーダンス100系のいずれか一方を接続してください。同じヘッダーに両方を接続すると誤動作、もしくは故障の原因となります。

## 電力増幅ユニットとの接続

### ■ 電力増幅ユニット (WU-P51、WU-P52、WU-P53) の場合

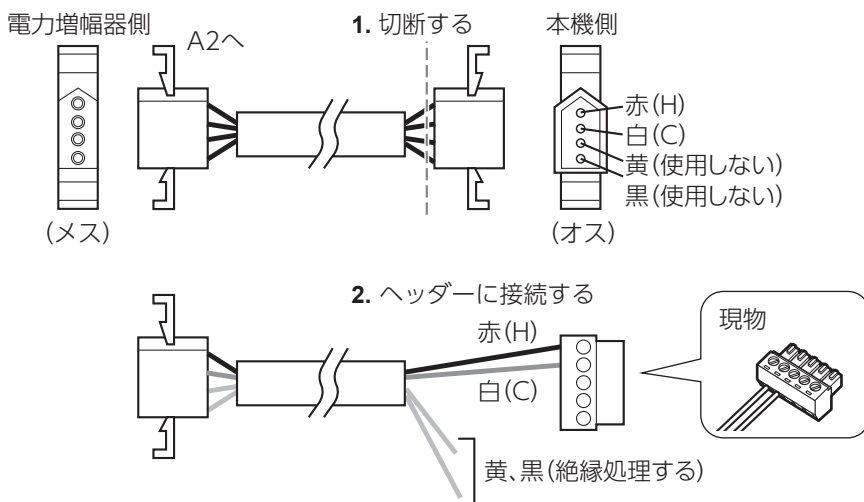
本機を電力増幅ユニット (WU-P51、WU-P52、WU-P53 : いずれも別売品) に接続して使用する場合は、電力増幅ユニットに付属のPA出力ケーブル (4ピン、2.5 m) または2芯4ピンケーブル (4ピン、2.5 m) を加工して接続します。(16ページ)



# 接続のしかた

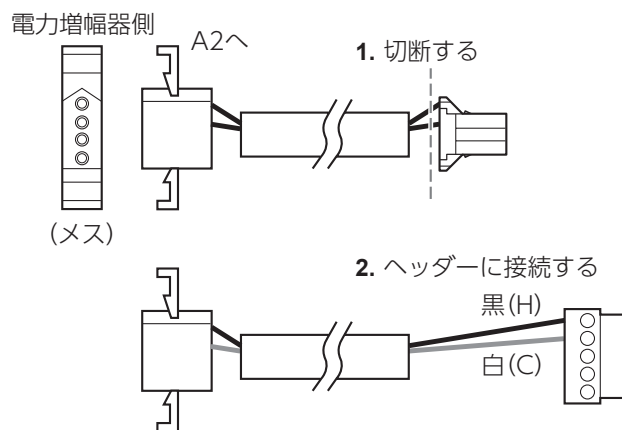
## PA出力ケーブルの加工のしかた

1. オス側のケーブルをコネクタの根元から切断する。  
黄色と黒色のケーブルは使用しません。切断面にビニールテープなどを巻いて絶縁処理を行ってください。
2. ケーブル先端の被覆を7 mm除去し、ヘッダーに接続する。  
赤色：SP HOT端子  
白色：SP COM端子



## 2芯4ピンケーブルの加工のしかた

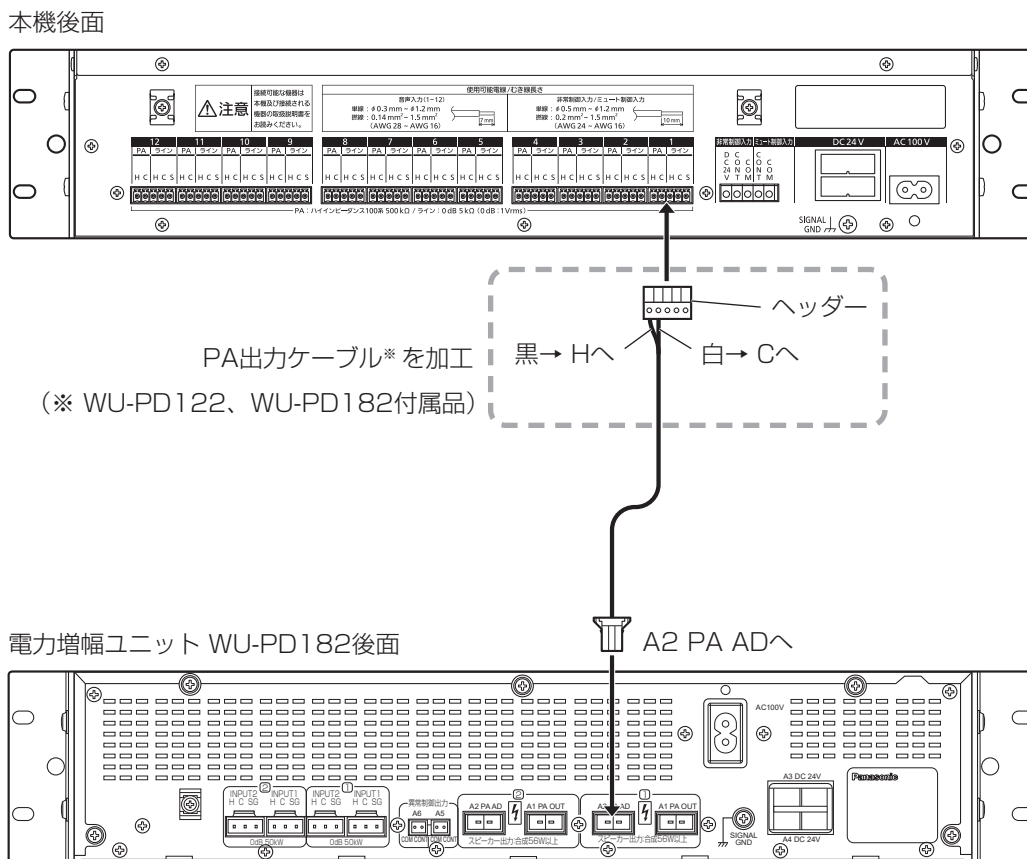
1. 一方のケーブルをコネクタの根元から切断する。
2. ケーブル先端の被覆を7 mm除去し、ヘッダーに接続する。  
黒色：SP HOT端子  
白色：SP COM端子





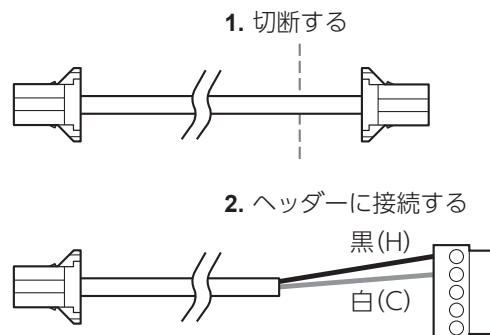
## ■ 電力増幅ユニット (WU-PD122、WU-PD182) の場合

本機を電力増幅ユニット (WU-PD122、WU-PD182 : いずれも別売品) に接続して使用する場合は、電力増幅ユニットに付属のPA出力ケーブル (2ピン、2.5 m) を加工して接続します。(下記)



### PA出力ケーブルの加工のしかた

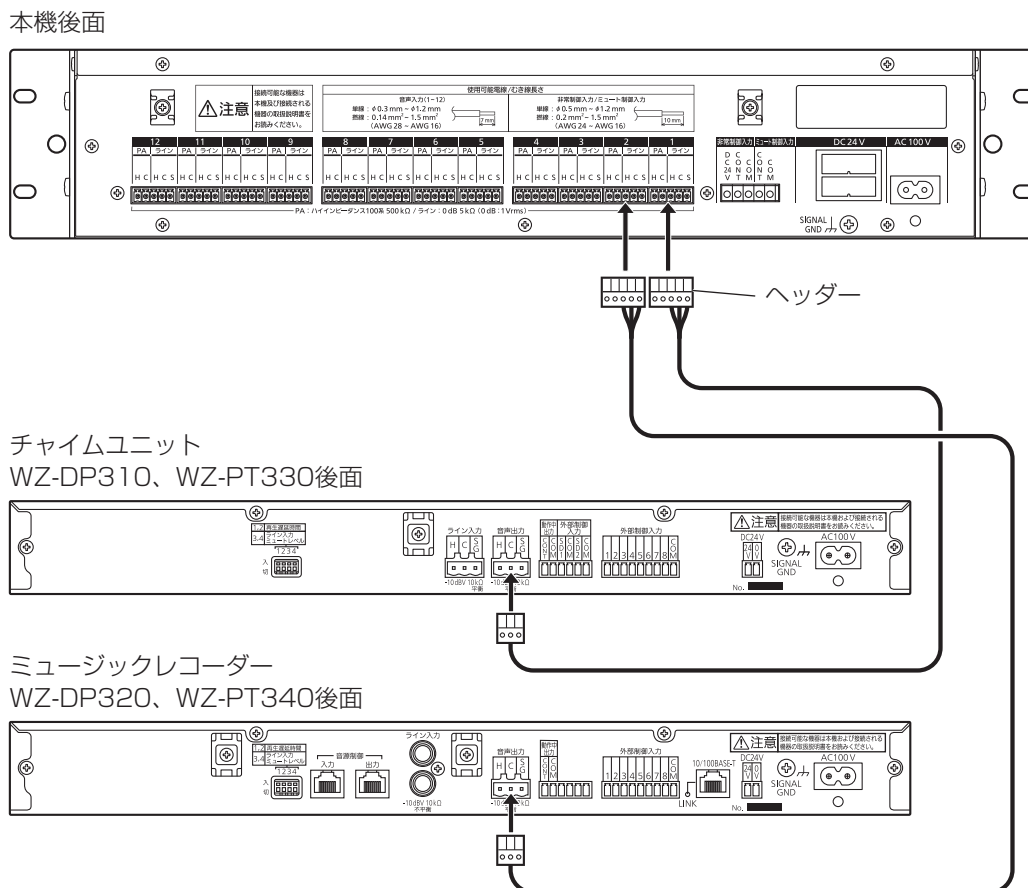
1. 片側のケーブルをコネクタの根元から切断する。
2. ケーブル先端の被覆を7 mm除去し、ヘッダーに接続する。  
 黒色：SP HOT端子  
 白色：SP COM端子



## ライン機器との接続

本機は、チャイムユニット（WZ-DP310、WZ-PT330：いずれも別売品）やミュージックレコーダー（WZ-DP320、WZ-PT340：いずれも別売品）などのライン機器を接続してモニターすることができます。

### ■ ライン機器のみ接続する場合

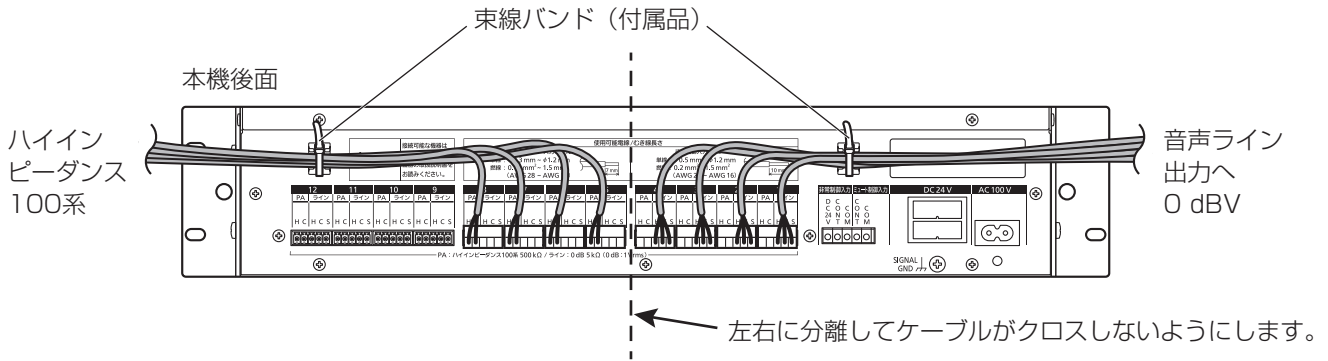


## ■ ハイインピーダンス機器とライン機器を同時に接続する場合

本機にハイインピーダンス機器とライン機器を同時に接続して使用する場合は、下図のように左右に分けて接続してください。ケーブルはハイインピーダンス系、ライン系を左右に分けて、ケーブルクランプに固定してください。



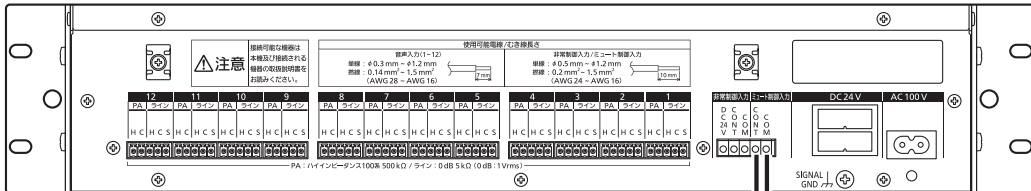
- ハイインピーダンス系のケーブルとライン系のケーブルをクロスさせないでください。クロスさせると、ノイズが入ります。



## マイクミュートの接続

本機は、業務放送システム（WL-K600：別売品）に組み込んで使用することができます。  
本機のミュート制御入力端子と入出力制御ユニット（WU-KR600：別売品）の汎用出力端子を接続すると、本体マイク放送時、モニタースピーカーの音量を自動的に下げることができます。（接続する汎用出力端子を「本体マイク放送中」に設定する必要があります。）

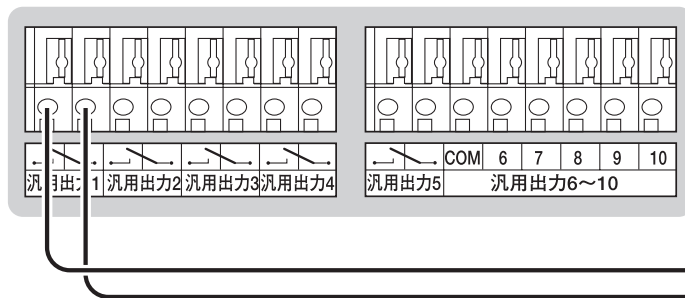
本機後面



接続ケーブル  
先端むき長さ：10 mm

適合電線  
単線：φ0.5 mm～φ1.2 mm  
より線：0.2 mm<sup>2</sup> (AWG24)  
～1.5 mm<sup>2</sup> (AWG16)

入出力制御ユニット  
WU-KR600前面端子台

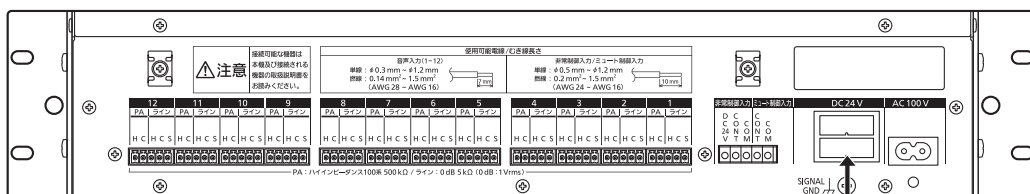


- 業務放送システムのマイクロホンでマイク放送しているときに、放送内容をモニターするとハウリングが発生することがあります。本機のミュート制御入力端子と汎用出力端子を接続すると、マイク放送時、モニタースピーカーの音量を自動的に下げるため、ハウリングを防止することができます。（接続する汎用出力端子を「本体マイク放送中」に設定する必要があります。）

# 緊急放送・業務放送用非常電源ユニットとの接続

停電時の緊急放送および業務放送で本機を使用する場合は、本機と緊急放送・業務放送用の非常電源ユニット (WP-570B：別売品) と接続します。

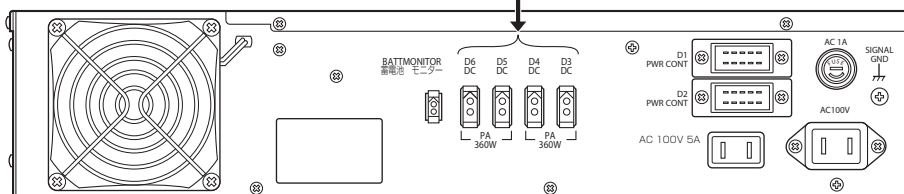
本機後面



DC端子  
上下いずれか

電力増幅ユニット (WU-PD122、WU-PD182)  
で使用する DC ケーブルと同じ DC ケーブル  
(K1PY02Y00091)

緊急放送・業務放送用  
非常電源ユニット WP-570B後面



D3~D6のいずれか

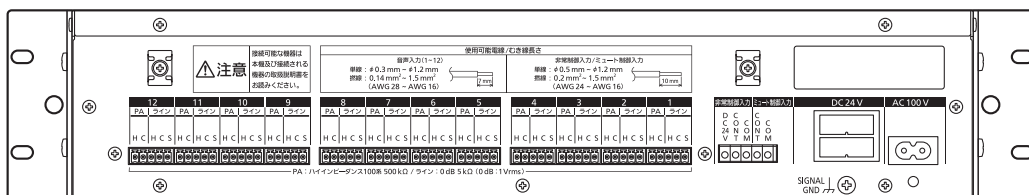
# EMG制御に関する設定

本機の非常制御入力端子と非常用放送設備のEMG24Vブレイク端子を接続すると、非常放送時に前面のモニター音量調節つまみの位置に関わらず、本機内部の音量調節VRであらかじめ設定した音量でモニターから音声が出力されます。

## 非常用放送設備との接続

本機の非常制御入力CONT～DC24V間に接続されているジャンパー線ははずして、非常用放送設備のEMG24Vブレイク端子を接続します。

本機後面

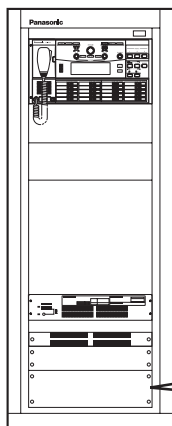


CONT～DC24V間に接続されているジャンパー線は外す

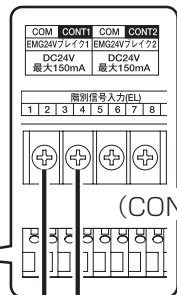
接続ケーブル  
先端むき長さ：10 mm

適合電線  
単線：φ0.5 mm～φ1.2 mm  
より線：0.2 mm<sup>2</sup> (AWG24)～1.5 mm<sup>2</sup> (AWG16)

ラック形非常用放送設備  
WL-8000/WL-8500の例



増設用出力制御ユニット  
WU-ER551/WU-ER552の端子台



(CONT1またはCONT2に接続)



- 非常用放送設備と接続しない場合は、必ず非常制御入力CONT～DC24V間にジャンパー線を取り付けてください。ジャンパー線を取り付けないと正しく動作しません。

# EMG制御時のモニター音量の調節

## ⚠ 注意



### 工事は販売店に依頼する

(工事には技術と経験が必要です。けが、器物破損の原因となります。)

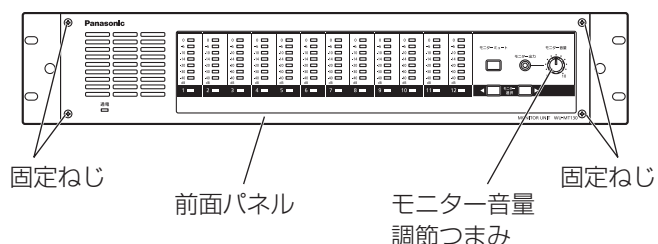
- 必ず販売店に依頼してください。

### 本調節時は電源を切る

(感電の原因となります。)

## 1 前面パネルを取り外す

モニター音量調節つまみ1個を取り外したあと、固定ねじ4本を外して、前面パネルを取り外します。



## 2 基板上のVR602 (EMG LEVEL) を調節する

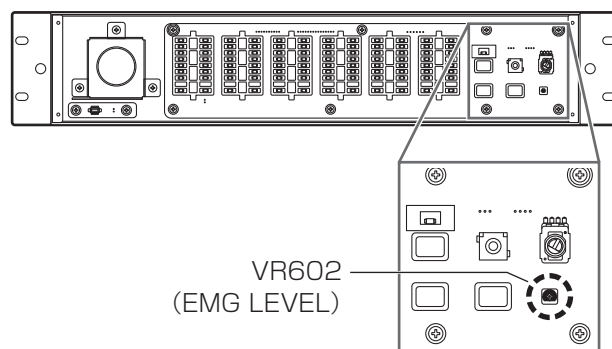
- 工場出荷時は最小 (0) に調節されています。
- 右に回すと音が大きくなります。



音量出力なし  
(工場出荷時設定)



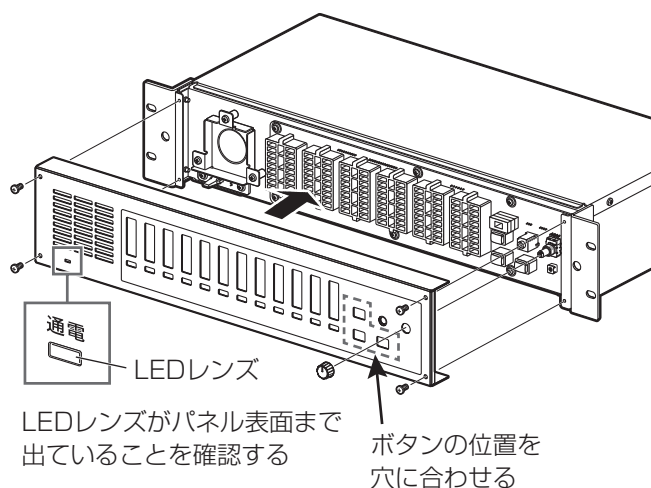
音量出力最大



EMG制御時に本機のモニターから出力する音量を設定してください。

## 3 前面パネルとモニター音量調節つまみを元に戻す

- ①前面パネルを取り付けます。
  - ボタンの位置を穴に合わせて組み合合わせます。
  - LEDレンズがパネル表面まで出ていることを確認します。
- ②手順1で取り外した固定ねじで前面パネルを固定します。
  - ねじの締付トルク  
: 0.69 N・m~0.88 N・m  
{7.0 kgf・cm~9.0 kgf・cm}
- ③手順1で取り外したモニター音量調節つまみを取り付けます。



# 故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で現象を確かめてください。

これらの対策をしても直らないときやわからないとき、この表以外の現象が起きたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象	原因・対策	参照ページ
通電表示灯が点灯しない	● 電源プラグがACコンセントに確実に接続されていますか？ → 電源コードを正しく接続してください。	—
	● 付属の電源コードが、本機に確実に差し込まれていますか？ → 差し込まれているか、確認してください。 コードの抜け防止に、電源コードクランプを使用することをおすすめします。	9、12
レベルメーターが、振り切れる	● 機器の接続が間違っていないか？ → ライン機器とハイインピーダンス機器の接続が正しいか確認してください。	18
	● 出力側機器の出力レベルが大きすぎませんか？ → 出力側機器の出力レベルを調節してください。	—
	● 音声信号が入力されていますか？ → 出力側機器から音声が入力されているか確認してください。	—
モニタースピーカーから音が出ない	● モニター音量が最小になっていませんか？ → モニター音量を調節してください。	8
	● モニターミュート表示灯が点灯していませんか？ → モニターミュート表示灯が点灯している場合は、 ① ミュート制御入力端子にミュート信号が入力されています。 信号が解除されるまでお待ちください。 ② モニターミュートスイッチを押してモニターミュートを解除してください。	8
	● モニター対象の系統が選択されていますか？ → モニター対象のモニター選択表示灯が点灯していることを確認してください。	8
	● ヘッドホン端子にヘッドホンが接続されていませんか？ → ヘッドホンが接続されているとモニタースピーカーから音声は出力されません。	8
	● 非常制御信号が入力されていませんか？ → 非常制御信号が入力されている場合、モニター音量調節つまみでは音量調節できません。	22
前面のモニター音量調節つまみでモニタースピーカーの音量が調節できない	● EMG制御に関する設定が間違っていないか？ → 非常用放送設備との接続が正しいか確認してください。EMG制御を使用しない場合は、DC24V端子とCONT端子が接続されていることを確認してください。	22



# 仕様

電源	AC100 V 50 Hz/60 Hz DC24 V
消費電力	AC100 V 4 W DC24 V 150 mA以下
音声入力	コネクタ式端子台 12系統 { ハイインピーダンス100系 500 kΩ 平衡 または ライン入力 0 dBV 5 kΩ 平衡 ※1系統にはハイインピーダンス系またはライン入力のいずれかを接続します。
表示	レベルメーター 7連バーグラフLEDメーター (0 dBV~-40 dBV、7段階) 12系統 モニター選択表示灯 12系統 通電表示灯 モニターミュート表示灯
音声モニター	内蔵スピーカー 1 W モニター出力 適合インピーダンス 16 Ω~64 Ω 端子形状 φ3.5 mm ステレオミニジャック (モノラル出力) ※ヘッドホンなどを接続した場合、スピーカー出力はミュートされます。
操作部	モニター選択スイッチ モニターミュートスイッチ モニター音量調節つまみ
制御入力	ミュート制御入力 無電圧メイク接点 開放電圧DC24 V 短絡電流 1.2 mA 非常制御入力 ブ레이크接点 定格電圧DC24 V 流入電流 1 mA
使用温度範囲	0 °C ~ 45 °C
使用湿度範囲	20 % ~ 90 % (結露なきこと)
寸法	480 mm (幅) × 88 mm (高さ) × 200 mm (奥行き) (つまみ、端子台除く)
質量	約3.5 kg
仕上げ	パネル：AVライトグレー塗装 (マンセルN8近似色) (日塗ICN-80近似色)

# 保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電話	(      )      -
お買い上げ日	年      月      日

## 修理を依頼されるときは

「故障かな!？」(24ページ)でご確認のあと、直らないときは、まず本機の電源を切って、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名	モニターユニット
●品番	WU-MT130
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	診断・修理・調整・点検などの費用
部品代	部品および補助材料代
出張料	技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

## アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

## 長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

### このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、音が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

### 直ちに使用を中止してください


故障や事故防止のため、**電源を切り**、必ず販売店または施工業者に**点検**や**撤去**を依頼してください。

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** 受付：9時～17時30分（土・日・祝日は受付のみ）  
※携帯電話からのご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは [https://connect.panasonic.com/jp-ja/support\\_cs-contact](https://connect.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact)

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

#### 【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック コネクト株式会社

パナソニック エンターテインメント & コミュニケーション株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号